

令和 5 年 6 月 8 日現在

機関番号：32507

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K14191

研究課題名（和文）認可保育施設における医療的ケア児の子育て子育て支援プログラムの開拓

研究課題名（英文）Development of Support Programs for Medelical Care Children in Nursery School

研究代表者

二宮 祐子（Ninomiya, Yuko）

和洋女子大学・家政学部・准教授

研究者番号：80758269

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 800,000円

研究成果の概要（和文）：本稿では、保育所保育がもつ特長的な機能について探究し、支援のあり方について検討することを目的とする。このため、医療的ケア児が在籍している保育所の園長や保育者にインタビューしたり、実際の保育場を観察したりするなどのフィールドワークを実施した。その結果、医療的ケア児の発育・発達を促す保育所保育の6つの機能が明らかとなった。具体的には、様々な感情の経験、仲間関係の形成、試行錯誤の促進、自己主張と自己抑制の促進があり、様々な職員との相互作用、様々な子どもとの相互作用が見いだされた。これらの機能を十分に発揮させるための支援のあり方について、個別的な配慮という観点から考察を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2021年に施行された「医療的ケア児支援法」により、医療的ケア児保育の普及は、政策的にも重要課題となっている。しかしながら、医療的ケア児保育に関する先行研究は、もっぱら事例研究が占めていたため、それらから一般的知見を引き出したり、後発事例に応用していくことに制限があった。本研究は、理論的サンプリングを経た複数の園でのフィールドワークに基づいているため、こうした問題を乗り越えていくことができると考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study sought to examine the function of ECEC for children with medical daily life support care needs. Research from the function of early childhood education and care (ECEC) perspective remains in its infancy in this field. Nursery school activities were observed where medical daily life support care is provided and nursery school teachers were interviewed. Based on this research, six ECEC functions of nursery school became apparent. Six ECEC functions are as follows: 1) emotional experience of various emotions, 2) formation of peer relationships, 3) promotion of trial and error, 4) promotion of self-assertion and self-restraint, 5) interactions with various staff and 6) interactions with various children. Finally, nursery schools should be provided with assistance to perform these functions based on the individual needs of children.

研究分野：子ども家庭福祉

キーワード：医療的ケア児 保育 フィールドワーク インクルーシブ保育

1. 研究開始当初の背景

「医療的ケア児」とは、「医学の進歩を背景として、NICU等に長期入院した後、引き続き人工呼吸器や胃ろう等を使用し、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが日常的に必要な障害児」を指し(平成29年度医療的ケア等の地域支援体制構築に係る担当者合同会議資料)全国で約2万人と推定されている。

2016(H28)年の児童福祉法の改正により「人工呼吸器を装着している障害児その他の日常生活を営むために医療を要する状態にある障害児」として、身体障害・知的障害・発達障害につぐ、新たなカテゴリとして定義された。

研究開始当初の2019(R1)年のデータでは、医療的ケア児の人数は過去10年で約2倍となった(厚生労働省2021)。また、0歳~19歳までの医療的ケア児約2万名のうち0歳~4歳で4千名を超えているように、年齢が低いほど医療的ケア児数は増加し、かつ、人工呼吸器を装着している比率も高くなる傾向がある(厚生労働省2021, 中村2020)。

このような社会情勢を受け、2021(R3)年9月より「医療的ケア児支援法」が施行された。本法においては、医療的ケア児とその家族に対し、社会全体で支援にあたるための基本理念および国や地方公共団体等の責務が定められた。国や地方公共団体だけでなく、保育所・幼稚園・認定こども園の設置者や家庭的保育事業等を営む事業者に対しても、医療的ケア児とその家族への身近な地域における社会生活支援を担うよう求められている。医療的ケア児の保育所等への受け入れと適切な対応を責務としているものの、保育の量も質も十分ではない状態が存在している。

その一方で、医療的ケア児保育にかかわる先行研究でも、先行研究の蓄積は皆無に近い状態であった。このため、近接分野の知見も活用しつつ、申請者のもつ質的研究のデータ収集や分析の諸技法を駆使して探究する必要性があった。

2. 研究の目的

上記の背景をふまえ、本研究では、施設型保育事業および地域型保育事業として、医療的ケア児への保育サービスを実施している認可保育所を対象として、参与観察やインタビューなどのフィールドワークを行うことにより、保育者による医療的ケア児への子育て・子育て支援プロセスを明らかにする。データ分析から得られた知見について考察を行い、体系的に理論化して、支援プログラムへとつなげることが研究目的として設定された。

3. 研究の方法

2019年度は、川崎市・横浜市・八王子市・A市・B市(いずれも匿名希望)において、医療的ケア児支援の経験のある保育者へのヒアリングを実施して、観察のための視点を絞り込んだり、分析の枠組を構築したりすることに努めた。また、フィールドワーク実施予定園のクラス保育に参加し、クラス担任や子ども達とのラポール形成に努めた。

2020年度は、コロナ禍のさなかではあったが、川崎市・横浜市・八王子市・C市(匿名希望)において、医療的ケア児受入のある実践現場における本調査(インタビュー, 参与観察)を、Zoom等も活用しながらすすめ、データ収集と分析をすすめた。2021年度は、医療的ケア児の育ちに対して保育実践が及ぼす影響と意義に焦点をあて、保育所保育の機能について理論的に考察した。

2022年度は、医療的ケア児保育にかかわる理論的考察をもとに、支援プログラムの策定にとりくんだ。

4. 研究成果

インタビュー調査において得られたデータについて、分析を行った結果、保育所等における医療的ケア児への保育実践には、医療的ケア児の発育・発達にとって他機関では代替えしづらい機能があることが確認された。医療的ケア児の育ちに対して保育実践が及ぼす影響と意義に焦点をあて、保育所保育の機能について理論的に考察した。その結果、以下の表に示すように、6つの機能(様々な感情の経験, 仲間関係の形成, 試行錯誤の促進, 自己主張と自己抑制の促進, 様々な職員との相互作用, 様々な子どもとの相互作用)を見出した。

表. 医療的ケア児における保育所保育の機能

カテゴリ	概要
1)様々な感情の経験	園においては、思う存分に喜怒哀楽を表出している周りの子ども達をモデルにして、感情表現について学び、様々な感情の存在に気づいて、相手の様子を見つつ、喜怒哀楽を明確に表現する
2)仲間関係の形成	医療的ケア児自身の在園時間も長く、同じクラスに在籍する子どもの人数も多いため、クラスメイトとの間で仲間関係を築き上げていく機会に恵まれる
3)試行錯誤の促進	園では、様々な制約はあるものの、他機関に比べれば、保育園では、保護者から離れ、医療的ケア児自身の時間が格段に増える。周りの子ども達からの刺激をうけ、一人で色々試してみる機会が増える
4)自己主張と自己抑制の促進	園生活では、常に保護者や看護師が付き添っていないため、吸引などの要求を自ら訴えるようになった。その一方、自分と友達との思いのすれ違いを経験したり、友達からの反応をみて、自分を抑えるようになったりする
5)様々な職員との相互作用	医療的ケア児が在籍するクラスでは、1対1で加配保育士が配置されていたものの、医療的ケアが実施される時間帯以外は、医療的ケア児に保育者が常に付き添う姿はなく、つかず離れずの距離感をとって、様々な職員との相互作用がとれるよう配慮されていた。
6)様々な子どもとの相互作用	保育者が医療的ケア児との間に「つかず離れずの距離」をとることで、子ども同士の多様な相互作用が促されていた。

さらに、これらを発揮させるための「個別的な配慮」のあり方について考察した結果、絶対的な配慮事項と裁量的な配慮事項の両方に目配りしながら対応しなければならないという難しさがあることが示された。

現在、これらの調査結果をもとに、医療的ケア児とその家族のための支援プログラムの策定を行っているところである。

本研究では、医療的ケアを個別の配慮として組み込んだクラス活動に取り組んでいる認可保育所をフィールドとして、参加観察とインタビューを実施し保育実践の機能という観点からの整理を行った。先行研究において、実践事例にもとづく知見はいくつか見いだされていたものの、複数のフィールドを比較しつつ実証的に検討されることは殆どなかった。研究協力者らが語ったエピソードや筆者のフィールドノートに記載された細やかな気配りや働きかけは、保育室でくりひろげられる微細な相互作用のなかに奥深く埋め込まれており、素朴に観察しただけでは見落としがちである。これまでの報告書等では、受入体制を中心に記載されたものが多かったことを考えると、受入後の保育実践に焦点をあてたフィールドワークにより、医療的ケア児の発育・発達を促す保育所保育に特長的な機能を見だし、その効果を十分に引き出すための支援のあり方について理論化したことは意義があるといえよう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 二宮祐子	4. 巻 21
2. 論文標題 医療的ケアを必要とする子どもへの保育実践の機能：認可保育所でのフィールドワークによる探索的研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 子ども家庭福祉学	6. 最初と最後の頁 11-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二宮祐子	4. 巻 168
2. 論文標題 コロナ禍がもたらす保育のICT化へのインパクト	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 66-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二宮祐子・富山大士	4. 巻 26
2. 論文標題 保育現場における園務支援システム導入の抑制要因と促進要因	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 子ども社会研究	6. 最初と最後の頁 5-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 二宮祐子
2. 発表標題 保育者養成校の学生における医療的ケア児への認識
3. 学会等名 保育者養成学会第6回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 二宮祐子
2. 発表標題 公立保育所における医療的ケア児の子育て・子育て支援
3. 学会等名 日本保育学会大会第73回大会発表論文集
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 二宮祐子
2. 発表標題 認可保育所における医療的ケアを必要とする子どもの保育の意義
3. 学会等名 日本子ども家庭福祉学会第20回大会発表抄録
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関